

事業報告書

事業名 アートスタート事業



1 実施団体 特定非営利活動法人子どもと文化の NPO 子ども劇場西多摩

2 担当課 子育て応援課

3 実施時期 2023 年 11 月 18 日（土）25 日（土）

4 参加者 11 月 18 日 34 名
25 日 13 名

5 実施場所 11 月 18 日 S&D たまぐーセンター 会議室 AB
25 日 新町市民センター 和室

6 事業の目的

- ・乳児からの豊かな体験をつうじて、子どもの成長・また保護者も含めた豊かな子育てに貢献する。
- ・孤立しがちな乳児期の親子が、アートを介して人とつながることを目指す

7 役割分担

- ・団体の役割 企画・運営・広報
- ・担当課の役割 広報・申込受付・事業当日の受付と参加

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

アンケートでは

「やさしい音をたくさん聴けて母もリラックスできました。いつもテレビなど、刺激の強い動画ばかり見ているのでとても良い時間でした。」

「音楽が好きなのでいろいろな音を聴けて嬉しそうでした。音や仕草等、子どもの五感を刺激できて貴重な時間でした。」

「とても楽しい時間でした。本人ものめりこんでいて、来れてよかったです。楽しいだけでなく、日々の子どもの時間も楽しめるヒントもたくさんあって、明日からも楽しい時間が増えそうです。」

「遊びながら絵本を読むことが大人でも楽しかったです。絵本世界と現実の世界がつながると面白いです。そして子供がそういったことに気づく（出会う）瞬間に立ち会えると幸せだなと感じました。えほんて割と自由に読んでいいんだなという発見もありました。」などの声がありました。

今回の事業の効果

- ・乳幼児の親子に、はじめての音やパフォーマンスとの出会いを届けることができた
- ・乳幼児時期に必要な親子の関わりのヒントになる、絵本をつうじたあそびや、布やおりがみ・風船など身近なものでコミュニケーションをとりながらあそぶことの大切さを自然と伝えることができた
- ・乳幼児がスマートフォンで YouTube をみるなど、子どもの生活に急速に進むデジタル化の中で、音や声に耳をすませ、保護者の温もりを感じながら一緒にみるというアナログの体験ができた
- ・子どもの個性がそのまま認められる講師の関わりの中で、保護者が安心して過ごすことができた
- ・25日は終了後に交流会を設けたことで、事業の感想をはじめ、子育ての中でいかしていきたいことの声もきくことができた。
- ・また交流会をすることで、乳幼児の親子が自然と人と一緒に楽しむ場に参加し交流する入口としての機能を果たすことができた

9 目標達成

事業の目標：参加者数として

11月18日 親子30組 11月25日 親子15組

目標の達成具合：11月18日 34名 親子16組（申込時18組）
25日 13名 親子6組（申込時7組）

10 事業の実施内容

アートスタート事業として、2つの事業を行いました。

11/18「ぽかぽかぷくぷくマインマイン」香味野菜

役者の中市真帆さんと、音楽を担当する櫻田素子さんのお二人で演じる人生のはじまりに出会う小さな舞台の実施。45分間の公演はゆったりとした生演奏の音楽の中で、布や風船をつかった乳児の感性に働きかけるパフォーマンスを、また最後にはぬいぐるみを用いたおはなしを。あそびと音とお話を楽しみました。

11/25「とびだせ絵本」

役者の中市真帆さんが20冊以上の絵本をならべた中から、参加者の月齢や様子をみながら選び、コミュニケーションリーディングを進めます。目と目を合わせて…内容にあわせ歌をもちいて…いろんな声で…。後半は折り紙をつかったあそびの時間。まるめた折り紙をボールにして、透明の筒に通すあそび、広げた円形の布をみんなでもってころがすあそび。家でもできること、ここにいるみんなとだからできること、様々なあそびのアプローチで、子どもが楽しむことはもちろん、保護者が普段子どもとあそぶ際のヒントがたくさんつまっていました。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4

(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

団体側）乳幼児の時代にこのアートスタート事業のような舞台芸術体験に出会う大きな意義は、「人との出会い」です。

5歳までの間に育つといわれている自己肯定感や感性を育てるためには、日常的に関わる保護者の存在が大きくなりますが、保護者がなかなか人とつながることが難しく、家族だけで背負う責任の重さや、親自身も体験が少なくなっている中で、せまい視野で子どもに接してしまうことは多々あります。様々な人や文化に出会うことで、風通しがよくなり、親子共に安心して過ごすことができますが、そのような環境は今多くありません。

親子の日常に少しでも子どもとの生活が豊かになるヒントを届け、市民同士のつながりを伝える場は大切になっています。乳幼児の親子が自然と人と一緒に楽しむ場に参加する入口として、子どもの豊かな感性を育む一つのきっかけとしてのこの事業を是非継続していけたらと考えています。

今回、チラシを全保育園へ届けること、子育て広場での配布、2回ほどの市の乳児健診での配布、青梅市 SNS での発信をしましたが、参加者は目標に届くことはできませんでした。しかしこの結果をニーズがないと捉えるのではなく、今後どのような場で実施し、どのような広報をすることで、必要な体験が届くのかを検討していきたいと思います。

行政側）まだ3歳以下の小さな子ども達が、普段味わうことがない音や動きに、目を丸くして反応している姿が印象的でした。大人が感じたことと

は違った感受性を持って、劇や絵本に相対していることが素晴らしく、この事業に参加したこどもがどのように育つのか、今後が大いに楽しみになってきました。

このような体験を多くの子供達に経験してほしい一方、参加者が目標に達しなかったことは、周知方法等の検討が必要と考えます。

また、今後の事業を継続については、子育てひろばや子育て支援センター事業のような年間の委託事業の1コマとして組み込むか、今回のように単独事業として開催するか、予算面からみても検討が必要です。

13 その他